

Kitaraの
ニューイヤー 2023

J.シュトラウス II: 喜歌劇「こうもり」序曲

Johann Strauss II (1825-99): Ouvertüre from *Die Fledermaus*

(約9分)

ピツィカート・ポルカ (管楽器付き初版) ヨーゼフ・シュトラウスとの合作

Pizzicato-Polka

(約3分)

ポルカ「雷鳴と稲妻」作品324

Unter Donner und Blitz op.324

(約4分)

藤倉 大: 箏協奏曲 (管弦楽版)

箏 / LEO

Dai Fujikura (1977-): Koto Concerto (Orchestra ver.)

(約26分)

休憩

ヴィヴァルディ: 「四季」より 春 RV.269

Antonio Vivaldi (1678-1741): La primavera RV.269 from "Le Quattro Stagioni"

(約11分)

ヴァイオリン独奏 / 会田 莉凡 (札幌交響楽団コンサートマスター)

チェンバロ / 鈴木 優人

第1楽章 アレグロ

I. Allegro

第2楽章 ラルゴ・エ・ピアノッシモ・センプレ

II. Largo e pianissimo sempre

第3楽章 ダンツァ・パストラーレ: アレグロ

III. Danza pastorale: Allegro

ラフマニノフ: 交響曲 第2番 ホ短調 作品27より

Sergei Vasil'evich Rachmaninov (1873-1943): Symphony No.2 in e minor op.27

(約14分)

第3楽章 アダージョ

III. Adagio

J.シュトラウス II: ワルツ「春の声」作品410

Johann Strauss II: Frühlingsstimmen op.410

(約6分)

ワルツ「美しく青きドナウ」作品314

An der schönen, blauen Donau op.314

(約9分)

2023.1.14 [土] 15:00 開演 札幌コンサートホールKitara 大ホール

演奏会はすべてのお客様にとって共有の空間です。余韻を楽しみたいお客様もいらっしゃいますので、ホールに響く余韻までお楽しみいただけますと幸いです。

協賛 / 東洋実業

中興ビルメンテナンス

ELX 株式会社ベルツクス

HOKUSEN

三誠美装株式会社

JAPAN AIRLINES

SUNTORY
SUNTORY BEVERAGE SOLUTION

後援 / 札幌市、札幌市教育委員会

特別協力 / HBC 北海道放送

主催: 札幌コンサートホール (札幌市芸術文化財団)

<https://www.kitara-sapporo.or.jp>



文化庁文化芸術振興費補助金
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

Program Notes

J. シュトラウス II : 喜歌劇「こうもり」序曲

ヨーロッパで年末年始の風物詩として上演されるオペレッタ「こうもり」は、ウィーン郊外の温泉地を舞台に繰り広げられる男女のドタバタ喜劇。富豪のアイゼンシュタインが、友人のファルケから公爵邸で開かれる舞踏会に誘われる。妻のロザリンデに内緒で出かけたアイゼンシュタインは、そこで出会った仮面の貴婦人を口説こうとする。それがじつは妻だとはつゆ知らず……そして翌朝、すべてはファルケが仕組んだ復讐劇だったことが明らかに。ファルケはかつて舞踏会の帰りに酔っ払って、こうもりの扮装をしたままアイゼンシュタインに置き去りにされたことがあったのだ。単独で演奏されることも多い**序曲**には、シャンパンの泡のように華やかなこの物語のハイライトが、予告編のごとく織り込まれている。

J. シュトラウス II : ピツィカート・ポルカ (管楽器付き初版) ヨーゼフ・シュトラウスとの合作

ウィнна・ワルツの創始者のひとりである父のヨハン・シュトラウス I 世の死後、「ワルツ王」と呼ばれ名声を獲得したヨハン・シュトラウス II 世だが、このポルカは弟のヨーゼフ・シュトラウスとの合作。ヨーゼフは工業学校で学び、技師として働いていたが、音楽家に転身し、約300曲の作品を残した。「**ピツィカート・ポルカ**」は弦を指で弾くピツィカートだけで奏されるポルカで、初演当初から高い人気を得た。

J. シュトラウス II : ポルカ「雷鳴と稲妻」作品324

ポルカとはもともとボヘミアから入ってきた2拍子の踊りで、ヨハン・シュトラウス II 世の父やヨーゼフ・ランナーらによってウィーン風に味つけされたが、やがて急速に進むウィーンの街の近代化や産業・テクノロジーの発達といった時代の加速に歩を合わせるかのように「ポルカ・シュネル(速いポルカ)」というスタイルが登場する。1868年に作曲された**ポルカ・シュネル「雷鳴と稲妻」**はタイトル通り、轟く雷鳴が打楽器で表現され、自然の大スペクタクルが活写されている。

藤倉 大: 箏協奏曲 (管弦楽版)

LEOがはじめて藤倉 大に委嘱した箏の独奏曲「竜」をベースに作曲されたのが、この**箏協奏曲**。2021年4月30日、サントリーホールにて鈴木 優人指揮する読売日本交響楽団との共演での世界初演が予定されていたが、新型コロナ感染拡大により無観客での演奏会となった。藤倉は、演奏家と密にコミュニケーションをとりながら楽器の特質や奏法を深く理解し、そこから新しい響きを生み出す作曲家。この協奏曲でも、「ちらし」や「うち爪」といった箏特有の奏法を新たな解釈で用いることで、箏という楽器の可能性を拓いてみせた。

奈良時代に中国から日本に伝えられた箏は、楽器の各部に龍にちなんだ名称がつけられているが、この協奏曲を聴いて筆者がイメージしたのは、中国の龍というより、西洋の竜(ドラゴン)。「竜」のモチーフで幕を開ける冒頭は、16分の15拍子で奏される箏が独特のグルーブを生み出し、オーケストラがうつそうと茂る密林に棲むさまざまな生き物の鳴き声や気配を、背景画のごとく立体的に描き出す。幽玄の世界へと誘い込まれる中盤以降も、箏とオーケストラが邦楽固有の「間(ま)」で会話しているように聞こえる。

この協奏曲において「ソリスト VS オーケストラ」という図式は成立しない。「箏のパートが羽ばたいていくのをオーケストラが助ける」という藤倉の言葉通り、オーケストラはさまざまな奏法を駆使して箏の音を模倣したり、増大させたりしながら竜の翼となる。そしてひとつの生命体になって大地を闊歩し、天駆けていく。

ヴィヴァルディ:「四季」より 春 RV.269

アントニオ・ヴィヴァルディの『和声と創意への試み』と題された曲集の第1番から第4番にあたる「春」「夏」「秋」「冬」は、それぞれ3楽章からなる協奏曲で、どの季節にもソネットと呼ばれる14行の定型詩が寄せられている。「春」では小鳥たちが歌い、泉がやさしく流れる。雷鳴が轟き春の到来を告げるが、嵐が通り過ぎるとふたたび小鳥たちが歌い出すといったのどかな情景が描かれている。

ラフマニノフ:交響曲 第2番 ホ短調 作品27より 第3楽章 アダージョ

2023年に生誕150年のアニヴァーサリーを迎えるセルゲイ・ラフマニノフ。24歳のときに発表した交響曲 第1番が酷評されて神経衰弱状態になったのち、ピアノ協奏曲 第2番で成功を収め、ふたたび交響曲に取り組んだのがこの**第2番**である。政情不安となっていたロシアからドレスデンに移住し、家族にも恵まれて心身ともに充実した日々にかかれた作品で、ラフマニノフらしいロマン的特質と、交響曲としての論理的な構成が見事に両立された名曲だと言える。**第3楽章のアダージョ**は、クラリネットが奏でる息の長い旋律や、弦楽器の叙情的な歌が印象的。

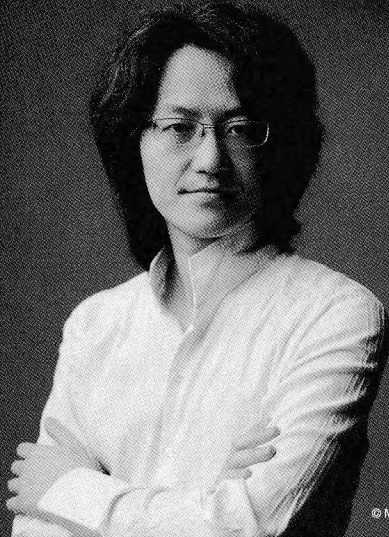
J.シュトラウスⅡ:ワルツ「春の声」作品410

1883年、ブダペストを訪れたヨハン・シュトラウスⅡ世が、晩餐会で同席した旧知の作曲家、フランツ・リストと即興のやり取りをしながら作ったと言われている華麗なワルツ。オーケストラ曲として演奏されることも多いが、ソプラノ独唱とオーケストラのための声楽曲でもあり、そこでは「ひばりが空に舞い、春が装いも美しく目を覚ました今、痛みは消え、悩みは遠くに去っていく!」と生命感あふれる春の喜びが歌われる。

J.シュトラウスⅡ:ワルツ「美しく青きドナウ」作品314

ヨハン・シュトラウスⅡ世が活躍したのは、皇帝フランツ・ヨーゼフ(妻はかの皇后エリザベート)が治めるオーストリア帝国の首都ウィーン。1866年、隣国プロイセンとの戦争に敗れたオーストリア帝国では市民の間にも重苦しい空気が立ち込め、舞踏会も自粛された。それならばとシュトラウスは、ウィーン男声合唱協会のために新作のワルツを贈呈する。「悩んだって仕方ない、楽しくやろうぜ!」という陽気な歌詞がつけられたその歌こそ、「美しく青きドナウ」の原型だった。その後、シュトラウス自身の手によってオーケストラ用に編曲され、フランツ・フォン・ゲルネルトによる荘重な歌詞がつけられ、「オーストリア第二の国歌」と呼ばれるほど親しまれるようになった。

解説／原典子(音楽ライター・編集者)



© Marco Borggreve

指揮・チェンバロ / 鈴木 優人

東京藝術大学卒業及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。令和2年度(第71回)芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオークラ音楽賞、第29回(2021年度)渡邊曉雄音楽基金音楽賞受賞。バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者／クリエイティブ・パートナー、アンサンブル・ジェネシス音楽監督。指揮者としてNHK交響楽団、読売日本交響楽団等と共演するほか、本年4月にはドイツ・ハンブルク交響楽団に客演。鈴木優人プロデュース・BCJオペラシリーズ、モンテヴェルディ：歌劇「ポッペアの戴冠」(2017)、ヘンデル：歌劇「リナルド」(2020)ではバロック・オペラの新機軸として高く評価され、後者は第19回佐川吉男音楽賞を受賞。2022年5月のグルック：歌劇「オルフェオとエウリディーチェ」(勅使河原 三郎新演出)で新国立劇場に指揮者として初登場。NHK-FM「古楽の楽しみ」にレギュラー出演するほか、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」などメディア出演も多い。録音はBCJとの「S.バッハのチェンバロ協奏曲集(BIS)、クメスティとのデュオ(Harmonia Mundi)など多数。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。作曲、編曲はもとより、バッハの喪失楽章の復元も多数手がける。ブルーノート東京にも定期的に出演するなど、その活動に垣根はなく、各方面から大きな期待が寄せられている。九州大学客員教授。



© 日本コロムビア

箏 / LEO

1998年横浜生まれ。本名・今野 玲央。横浜インターナショナルスクールの音楽の授業で9歳より箏を始める。音楽教師であり箏曲家のカーティス・パターソン氏の指導を受け、のちに箏曲家 沢井 一恵氏に師事。14歳で全国小中学生箏曲コンクールにてグランプリ受賞。16歳でくまもと全国邦楽コンクール史上最年少 最優秀賞・文部科学大臣賞受賞。一躍脚光を浴び、2017年19歳でメジャーデビュー。同年、東京藝術大学に入学。MBSドキュメンタリー番組「情熱大陸」、テレビ朝日「題名のない音楽会」「徹子の部屋」、NHKワールドプレミア「世界へ届け 日本の伝統芸能」、NHK Eテレ「にっぽんの芸能」、など多くのメディアに出演。ヴァイオリニスト五嶋みどり創設MIDORI & FRIENDS主催ニューヨークツアー開催。セヴァスティアン・ヴァイグレ、井上 道義、秋山 和慶、沖澤 のどかをはじめとした指揮者や、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団と共演しソリストを務める。21年4月には藤倉 大委嘱新作の箏協奏曲を鈴木 優人指揮・読売日本交響楽団との共演で世界初演し、その模様を収録した最新アルバム「藤倉大：箏協奏曲」(DENON/日本コロムビア)が同年9月にリリースされた。19年出光音楽賞、神奈川文化賞未来賞受賞。現在、沢井箏曲院講師。伝統を受け継ぎながら、箏の新たな魅力を追求する若き実力者として注目と期待が寄せられている。



© Y.Fuji

管弦楽 / 札幌交響楽団 Sapporo Symphony Orchestra

1961年発足。北海道唯一のプロ・オーケストラとして、「札幌」の愛称で親しまれる。透明感のあるサウンドとパワフルな表現力は、国内はもとより海外でも評価が高く、これまでにヨーロッパ、アメリカ、アジア諸国を訪問し、各国で好評を博した。歴代指揮者には、名誉創立指揮者の荒谷 正雄、ペーター・シュヴァルツ、岩城 宏之、秋山 和慶、尾高 忠明、マックス・ボンマー、ラドミル・エリシカなどがある。現在、首席指揮者 マティアス・バーメルト、名誉音楽監督 尾高 忠明、友情指揮者 広上 淳一、正指揮者 川瀬 賢太郎を擁する。年間公演数は約120回、さらにアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、2021年に60周年を迎えた。

新型コロナウイルス感染症拡大防止についてお願い

- マスクの着用、検温、手指の消毒にご協力ください。
- ブラボー等の声援はご遠慮ください。
- 座席での歓談はお控えください。